

# 図書館 だより

泗水図書館 ☎0968 (38) 6866  
 中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672  
 七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580  
 旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111  
 内線 303

## 閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日  
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日  
 七城公民館図書室 日曜日・祝日  
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき  
 秋は読書の季節！散歩のついでに図書館へ遊びに来ませんか？  
 コスモス



## 新着・お薦め図書

### 泗水図書館

羊と鋼の森  
 たらふくつるてん  
 琥珀のまたたき  
 呪文  
 倭国の都は火国・熊本  
 田んぼアートのキセキ  
 ペンギンは、ぼくのネコ  
 アンドルーのひみつきち

宮下奈都 著  
 奥山景布子 著  
 小川洋子 著  
 星野智幸 著  
 小山顕治 著  
 葛西幸男 著  
 ホリー・ウェッブ 作  
 ドリス・バーン 文・絵

### 中央公民館

おかんメール  
 ディズニー占い  
 moomin cafe おもてなしごはん  
 君の臍臓をたべたい  
 新卒で給食のおばさんになりました  
 がっこうのおばけずかん  
 ガスパールこいをする

『おかんメール』制作委員会 著  
 リサ・フィナンダー 著  
 松本 勲 著  
 住野よる 著  
 松山ルミ 著  
 斎藤 洋 著  
 アン・グットマン 文

### 七城公民館図書室

超訳広岡浅子自伝  
 ボンボンで作る素敵なこもの  
 秘密  
 しずくちゃんおやつクッキング

広岡浅子 著  
 井上真美他 編  
 小林深雪他 著  
 ぎぼりつこ 作・絵

### 旭志公民館図書室

トンネルの森 1945  
 あっ！命の授業  
 世界でいちばんすばらしいもの  
 100円ショップでうきうき手づくりおもちゃ

角野栄子 著  
 ゴルゴ松本 著  
 ヴィヴィアン・フレンチ 文  
 吉田未希子 著

## 耳より情報

### ☆ボンボンで雪だるまを作ろう☆

毛糸のボンボンで雪だるまスコットを作りませんか？  
 キーホルダーにしたり、ツリーに飾ったり、お友だちにプレゼントするのもおすすめです！  
**と き** 12月6日(日) 午後1時～3時  
**と ころ** 七城公民館中研修室  
**定 員** 10人程度 (先着順)  
**対 象** 小学生以上  
**参加費** 無料  
**募集期間** 11月2日(月)～28日(土)  
 申し込み、問い合わせは七城図書室まで。

高さ約10センチのかわいい雪だるまスコットが作れますよ。みんなで一緒に作りましょう！



### 万句の里俳句会 9月例会

帰燕して広がる空のなほ広し 宮本 雅子  
 嵐去り窺ふやうに虫の声 林 まつ子  
 風の吹くたび色あせる吾亦紅 松永 久子  
 高原に声をすべらせ草ひばり 中路 郁子  
 土用干しては思ひ出又たゝむ 田中ひさ子

### せせらぎ俳句会 9月例会

月今宵昔を偲ぶ友の顔 村山 数恵  
 案じたる災ひも過ぎ稲の秋 五丁 義昭  
 敬老日尼僧の法話に涙する 藤本アツ子  
 孫からの絵手紙届く萩の花 寺本 和子  
 蟻地獄見てをり諍ひし日の記憶 藤本 邦治

### 旭志文芸教室俳句の会9月詠草

戦線へ兄は十九の夏に散る 中尾ヨシコ  
 夕星やひと日の暑さ未だあり 芹川 蓉子  
 姉逝きて胸にぼっかり晩夏かな 水谷 ミネ

### 夏休み自転車けいこ一年生

たまの暇 旅行したいと妻は言う 田中レイ子  
 白紙に戻し 熱の冷めたら嫌な奴 高木 房恵  
 実りの秋 溢れとる自然の恵み 高倉 新米  
 無念無想 球の止まって見えじゃア 辻 弘喜  
 四方八方 三年経ってまだガレキ 藤野 清子

### 肥後狂句水笑会 9月例会

打つ手無し 医者どんからも見はなされ 平井 紅彩  
 連休も 家族奉仕で鍛わるる 続 義昭  
 丸儲け オレオレちゅうとやらす銭 井手 水光  
 気の毒です 育毛剤もききません 小崎 海美  
 子沢山 たらい回しの親の世話 山隈 好茶

### 七城短歌会 9月詠草

台風の進路は最悪如何にせむ稲は穂 孕み眠られぬなり 高木 精  
 長雨にそこ此処伸びたる畑の草為す 術緩めし隙を突かれり 池田カツ子

### 点滴の管に安静強いらるる窓越しに

鳩自由に羽ばたく 嶋田 晴美  
 蝉の声しぼしを聞かず庭に出づ前山 近くつく法師鳴く 木下 陽子  
 穂孕み期台風まともに受けし稲日毎に頭深く垂れゆく 緒方 正俊

### 「里」短歌会 9月詠草

晴れわたる三保の松原へ誘うやこころ澄みくる御能「羽衣」 緒方 悦子  
 叔父ふたり遙か湖南と広島で「戦死」の文字のわが胸を打つ 宮本 淑子  
 過ぎし日に戻りて母に会いたいよ筆筒の底の大島つむぎ 桑野 睦子

### 高齢者大学文芸部 9月歌会

「ノモンハン玉砕」幾度巡る兄の忌よハルハの流れ何をか語る 山下 菊代  
 歳をとることの寂しさ膝にきて朝な夕なに立居を阻む 山代 静子  
 窓あけて家族揃ひて見る花火曾孫も背伸びし大声あげる 中原 光子  
 声しぼりむらぎもしぼり蝉の鳴く幹を叩けば尿をかけゆく 川口 敦子

# 文芸 きくち

### 菊池短歌会 10月詠草

ボート、へり災害列島とふなれどここの国の態勢頼もしかりけり 古賀 勝士  
 夕暮れの残光もいとやはらかに老ひ盛りなる齢としむ 中川 愛子  
 殉教の祭祀のやうな没りつ陽の茜を裂きて銀機わたれる 怒留湯健容  
 薄桃のちひさき花弁空に映え山を背に十月桜 林 まつ子  
 遠来の客待つわれに立葵今朝くれなるの蕾ほどきし 村上さき江